



CONTENTS

- ▶ 1面 東所沢小学校 PTA 優良 PTA 文部科学大臣表彰
- ▶ 2面 第32回市長・教育長と語る会
- ▶ 3面 市内PTAの様々な取り組み紹介
- ▶ 4面 世界で活躍する所沢出身者
- ▶ 5面 市内の学校の周年事業 (安松小・富岡小・山口小・上山口中)
- ▶ 6面 自転車保険・入間地区広報紙コンクール表彰式

発行 所沢市PTA連合会
 編集 所沢市PTA連合会北ブロック
 (仲栄小・美原小・富岡小・西富小・中富小・中央小・美原中・富岡中)
 24,300部

- 1 重点課題を明確にしたPTA活動の推進と情報発信
- 2 子どもたちの健全育成のための各種審議会との関わりの中で、研修を深め、学び実践するPTA活動の推進
- 3 単位PTAをつなぐ要として、つながり、達成感をもち、親としての成長を実感できる活動の推進

～～新たなPTAの在り方と役割を考える～～

東所沢小学校PTA 優良PTA 文部科学大臣表彰

PTA活動の意識改革は、情報共有・制度改革・デジタル化の3本柱から!



東所沢駅周辺を主な通学区域とし、開校33年の若い学校です。校舎の屋上の時計台にある鐘は、シンボルであり、懐かしさを感じさせる優しい音色を奏でます。周辺には、戸建ても増えており、共働きの家庭が市内でも多い区域です。

「さわやかに登校して、元気に活動し、笑顔で下校する東所(ひがとこ)っ子」をめざし、地域に根ざした学校づくり、なかよく学び合い・高め合える学校づくりに挑戦しています。中でも、PTAは強力な学校サポーターです。



西ブロック主催・PTA 会長等研修会で報告会が行われました

2月3日(土)にPTA 会長等研修会が開催され、東所沢小学校 PTA の活動報告が行われました。研修会の様子は、市P連のホームページあるいは右の二次元コードからご覧ください。

情報共有

必要な時に必要なタイミングで情報提供

- (1) PTA活動や役員の仕事をわかりやすくQ&A形式で広報
- (2) PTA活動経験者からの声を紹介。興味・関心・意欲を!
- (3) 新入生保護者向けの親しみやすいPTA活動紹介
- (4) お知らせや総会議案書など、学校HPに掲載

制度改革

活動しやすい環境づくりを目的に、柔軟な会則変更

- (1) 運営委員選出時の学年縛りを廃止
- (2) 総会を3月と5月に実施して引継ぎをスムーズに
- (3) 新入生保護者は役員を免除し、安心してPTA活動に参加
- (4) 役割の統合・集まる回数の見直し

デジタル化

業務プロセスの効率化とペーパーレス推進で負担軽減

- (1) PTA会費を口座引き落としへ。入会届の整備。
- (2) LINE・市の連絡用「ほっとメール」などの活用
- (3) 会議資料は電子データ、プロジェクトで資料提示

成果

- ・臨機応変な対応でPTA活動の「見える化」「スリム化」「負担軽減」を実現。
- ・「できる時に、できるところまで」をモットーに、PTA活動に充実感・達成感をもたらした。
- ・PTA活動が、お互い様でサポートし合い、仕事や病気でも気兼ねなくお休みできる環境づくりを実現。
- ・役員は、すべて立候補で決定。

課題や今後の取り組み

- ・収益確保。(PTA会費1500円)
- ・立候補で役員不足の際の対応。
- ・ボランティア活動の拡大。





「第32回市長・教育長と語る会」報告

テーマ

～ こども・保護者・教員 皆で学校生活を楽しむために ～ 「PTAの原点に立ち返ろう」

登壇者

小野塚勝俊 所沢市長
中島秀行 所沢市教育委員会 教育長

パネラー

吉田章伸 東中学校PTA会長
栗原忠之 中央小学校PTA会長
村岡千春 荒幡小学校PTA会長
西川涼子 北野中学校PTA会長

進行

山村顕子 向陽中PTA会長

企画

中央ブロック：
中央中、所沢中、向陽中、
所沢小、北小、清進小、
明峰小、若松小

市長・教育長と4名のPTA会長が、パネルディスカッションを行いました。



コロナを経て変化した生活・教育環境の中で、子どもたちは今、学校に楽しく通いのびのびと学習できているか、保護者は何を伝え、どう導いていけばよいか…。今回のテーマは、このような議論の中であがった「子どもが楽しむためにはまず保護者が楽しむべき」という意見により決まりました。プレディスカッションでは、保護者が学校や先生をよく知り、PTA活動や学校行事への参加・協力を楽しむ、そこに貢献できるのがPTAではないかという方向で話が進み、当日も「PTAの本質に立ち返ろう」と題して、本当にPTAに求められていることは何かを語り合いました。

【会長は、活動を楽しめているか、保護者はどうか】

- P) 会長として、みんなで物事を進めるのは楽しいし、自分からやれば楽しくなる。やらされ感が強いと前例踏襲が楽になる。
- P) 楽しんでやれる人ばかりではないので、周りとのコミュニケーションをとり、会議も笑いがあって、不安や負担にならないようにしている。
- P) 会長をやって、子どもも喜んでくれる。子どもたちの前で話せる機会も多く貴重な体験。役員をやってよかったと言ってくれる保護者が多い。

【保護者同士、保護者と教職員の連携のために】

司会) 教員もPTAに加入できるが保護者とは立場が違う。教育長) 教師、保護者それぞれの立場で話し合うことは大切である。今は、親が孤立しており、親の気持ちをまとめる役割を果たすのがPTAである。「顔をあわせ、心を合わせ、力を合わせる」ことが大切だ。PTAの自主性も当然必要だが、PTAは学校ごとに「主体性」をもって取り組む必要があるだろう。少数の大きな声に学校が振り回されることがあるが、「静かな多数の意見」をPTAが声にすることも必要と思う。

P) 悩んでいる保護者と話し合ったとき、少し心に余裕ができたと言われた。PTAが、校長や教育長、教育長をはじめ教育委員会ともフラットな関係となっていれば親も心強い。先生の立場と保護者の立場を理解し合うためにPTAがあるのだと思う。

P) 自分のプライベートな話を他人に相談することはハードルが高い。PTA役員に相談できることをもっと広く認知してもらうのが大切。うまくいっているPTAは広報がうまい。

P) 親の相談を受けるのは、ハードルが高い。PTAは相談の場を提供したり人を紹介したりするべきで、役員が受け皿になるべきではない。PTAの機能はミニマムで、そこに得意なものを年度ごとにつけ足せることが大事だと思う。

司会) 子どもを孤立させないためには保護者も孤立させてはいけない。PTAは保護者の意見を集めることができるし、SNSやブログなどでの情報共有もそこに生きてくると思う。

【“やらされている感”とあるべき姿】

司会) PTAは任意団体、必要と思う人がいるから存在しているはず。それなら会員が必要と思うこと、子どもたちのためにしたいことをしていけばよい。なのにやらされている感があふれている。

教育長) 自分の子どもが中学生の時、荒れていた学校をなんとかしなくてはと当時のPTA会長と共に保護者の会を創った。親が自分の子どもの学校をよくしたいという思いがエネルギーになるのではないかな。

市長) 頼まれて渋々引き受ける人もいるし、前向きに楽しんでやる人もいる。それぞれのやり方がある。

P) 家庭教育学級はやらされ感が強い。やるかやらないかを選択させてほしい。PTAは人が入れ変わっても継続できるよう臨機応変に対応できるのが望ましい。

P) 「やれる人がやりたいことをやる」という主体性をもっと周知することに注力すべき。やるやらないの選択肢があるともっと気楽になる。前年と同じことをやるための引継ぎが多い。

P) 「自主的」というのは無理があり、お願いされて協力している人も多い。でも10人より100人で力を出し合う方が一人の負担が楽になる。やりたくない活動も子どもにとって必要だと考えれば親もやれるのではないかな。

【まとめ】

教育長) 校長をしていたコロナ禍にあっても、保護者の後押しのおかげで、様々な活動や行事ができた。学校とPTAがうまくコミュニケーション取れば、実現できることはたくさんある。

市長) 子どもたちのため、いつも子ども目線で考えていただければと思う。

司会) 子どもたちのために話し合ったり協力し合ったりできるよう、保護者同士や保護者と学校が良い関係を築くことが重要、そこにPTAが貢献できると良い。子どもを孤立させないためにはその保護者を孤立させないことも重要。保護者のためのPTAでもあってほしい。

前年度にとらわれないPTAの主体性が、「市長教育長と語る会」「会長等研修会」では議論されました。ここでは、PTAが主催するイベントの様々なかたちを紹介します。

地域のスポーツ少年団と協力してPTA行事 ＝宮前小学校＝

コロナでできなかった「宮前レクリエーション大会」が4年ぶりに開催。ストラックアウト、ティーボール体験、綱引き、どら焼き食い競争、ドッジボール(大人対子ども)、ボーリングなどが行われ、地域のスポーツ少年団の方々にもご協力いただきました。



保護者の専門性を生かしたPTA行事 ＝林小学校＝

林小学校では、「集まれ、林っ子まつり」を開催しました。おもちゃ・飲み物販売や体育着バザーの後、映画上映が行われました。会長が上映機材を準備して大画面で楽しむことができました。できる人ができることを！ということです。今の会長さんが変われば、また新しい人たちでできることをみんなで考えていければいいですね。



地域の企業、地域の方々を巻き込んだPTA行事 ＝椿峰小学校＝

椿峰小学校の卒業生の保護者(末永^{ただし}匡ピアノ+末永^{きよ}貴与クラリネット)による『みんなの音楽祭♪』が、全校児童だけでなく、地域の方々も朝早くから体育館に詰めかけて、盛大に開催されました。コンサートは1時間30分にわたる演奏者の熱演に児童の歌声も加わり、まさに「椿の丘 みんなの音楽祭」でした。3年間のコロナ禍での様々な制限を思い出して、演奏者が涙流す場面もありました。このコンサートには、地域の方々を招くだけでなく、地域の企業に協賛してもらおうといった取組がありました。みんなが楽しくやれるPTAをめざしています。

1月には、(株)ピクセンによる星空観望会も行われました。



不登校・引きこもりの現場から

不登校・引きこもりの現場から ～楽校のすすめ～ 所沢市PTA
大人が子どもにできることを考える



12月3日(日)不登校について、保護者・学校関係者を対象に市P連・東ブロック主催の講演会が開催されました。

講演者は、不登校・引きこもりの民間相談機関である「開善塾教育相談研究所」所長の藤崎育子さんです。その経験から、埼玉県教育委員長もお勤めになり、学校と行政機関の役割にも、常に厳しい視線を持たれています。

会場には、90名以上の参加があり、学校を「楽校」にするにはどうすればいいのかわ、皆さんに問いかけられました。

担当した市P連東ブロックでは、今回の参加者を対象に引き続き「ワークショップ」を3月に開催する予定です。

世界で活躍する所沢小中学校出身者特集(第3弾)!

和田小・安松中卒業生

鈴木 梨子さん

世界デフテニス選手権ギリシャ大会
ダブルス優勝! 女子チーム優勝!
シングルス3位!



聴覚に障害のあるデフテニス選手である鈴木梨子さんとのインタビューは、静かな場所で向かい合っただけのインタビューとなりました。

まず、大会後の感想を尋ねると、ギリシャの会場コートが想定外で苦心したそうですが、結果には満足でした。海外の選手は、攻撃的で難しいボールも無理して打つので、様々な球種のボールをコースを狙って仕留める鈴木さんには向いているそうです。

テニスは、小学2年の時にお姉さんのテニスクラブの送迎についていったことがきっかけです。親とテニスの話はしますが、口出しされることはありません。それよりも、テニス以外の選択肢を作ってくれたことに感謝していました。いやいや通われた塾のお陰で勉強には困らず、「自分はテニスだけじゃない」という余裕や「テニス以外のこともできる」という自信を持たせてくれました。もしもテニスだけなら、逆にテニスからプレッシャーを感じたかもしれないそうです。

小中学校時代は、体を動かすのが大好きで、昼休みはすぐに外に飛び出す子供でした。得意教科は体育、音楽は苦手でした。中学校では部活動に入らずクラブで練習していたので、高校はテニス強豪校ではなく、部活動でいっしょに練習してみんなで団体戦ができる高校を選びました。

難聴の困りごとを話してくれました。ちゃんと向かい合っただけの話すのは問題ないのですが、周りで話される「〇〇かもしれないよ」「〇〇みたいだよ」みたいな情報や急に隣に来て話されたことは聞こえてきません。話されたことがすべて伝わっていると思わないでほしい、だからこそ、難聴のことをオープンに知ってもらい、ふつうに接してほしいそうです。

大好きな食べ物は、うどんとおもちに島豆腐、お母さん手作りのお米の入ったパン。海外遠征や国内大会で各地を回りますが、テニスを離れているような場所を旅することが夢です。



明峰小・所沢中卒業生

小畑 多丘さん

ロンドン・パリ・ニューヨーク、
世界で個展を開催する
彫刻家&ブレイクダンサー



日本を代表する彫刻家、小畑さんの市内にある制作現場を訪れました。

「明峰小、所沢中を卒業し、高校はバスケットボール部をやるために選びました。得意な教科は、図工・体育・美術で、運動は、小学校の時は剣道や少年野球など運動好きでした。ダンスは、小学生の時にあった『ダンス甲子園』などの90年代のブームで興味を持ち、兄に誘われて高2の時にダンスを始めました。将来は、サラリーマンかなと漠然と考えてた時に、兄が予備校でグラフィックなどを勉強しているのを見て、自分も好きなことをやっていいんだと思ったんです。」

「体を動かして表現したいと思い、三浪して東京芸術大学に合格しました。ダンスをどう見せるかという、作りたいものが最初からあったし、ダンスを彫刻にするのは誰もやってなかったの。」

「大学では、それまでやっていた粘土は練って増やして作るのに対して、彫刻は削って作るという難しさがありました。そこで、ダンスの動きを深く考えました。量を増やす粘土と量を減らす彫刻という違いに加えて、ダンスの移動という量も考えるようになりました。」

「父親とはよく一緒に遊んでもらいました。自由な人で怒られた経験はあまりないが、しつけには厳しかったかな。母親は、当時としてはモダンな雰囲気の家の人でした。」

「子どもたちは、好きなものを見つけて、それを突き詰めていくといい。自分は、好きなことを仕事にするのが向いていました。ただし、続けないとダメ。蓄積が大事。水を床にまくとすぐに乾いてなくなってしまう。でも、コップに水を入れると何日も流れずに残っている。このコップにあたるのが自分ではダンスだったり彫刻だったりするんです。たぶん、自分にとっては続けていくことが普通のことですが、それを知らない人は自分の作品をいきなり見るので面白いのだと思います。」

「所沢という土地は、中途半端なマインドを持っていると思う。東京のような都会ではなく、かといって田舎ではない。東京に染まるのではなく、俯瞰して東京を見れる。この感覚はここに住んでいないと得られないかな。」

最後に定番の質問、好きな食べ物は? 「うどんかなあ。父親が55歳で市役所を退職して、うどん屋を始めました。祖母もよく打ってくれたうどんが好きですね。」

今年度も開校を祝う周年行事が市内各校で開催されました

山口小学校 開校150周年記念

狭山小学校、勝楽小学校、西狭山小学校と歴史を重ね、現在の山口小学校は、開校150周年を迎えました。代表委員会の児童を中心に記念の行事を行いました。

5月の運動会では、バルーンリリースを行い「山口小おめでとう」の合図で、笑顔で色とりどりの風船を飛ばしました。青空に飛んでいく風船がとてもきれいでした。



11月に音楽会を開きました。司会を代表委員会が行いました。山口小のマスコット「やまみどり」が新しく生まれ変わりました。どの学年も人を感動させる演奏でした。オリジナル曲「つなぐ」ができ、全校で心を入れて歌いました。歌詞に「愛、夢、笑顔、人のために」があります。作詞は校長先生、作曲は大森先生です。オリジナル曲は山口小のホームページから聴くことができます。



今年は、運動会も音楽会も全校児童で行うことができました。全校で行うことのできた150周年の記念の年、1年生から6年生のみんなが笑顔になりました。

151周年の来年は卒業生が1万人を超えます。歴史のある山口小学校を、未来に向かってみんなであついでいこうと思います。

安松小学校 開校50周年

安松小学校は今年度、開校50周年を迎えました。行事委員会の児童を中心に決定した「未来へかがやけ 元気いっぱい 安松っ子」というテーマのもと、9月には記念運動会、10月には卒業生でパラリンピック選手の小須田潤太さんをお迎えして記念講演会を実施しました。11月の記念式典、記念音楽会では市長と教育長にご祝辞をいただき、多くのご来賓、ゲストのトコロんとともに開校50周年をお祝いしました。

今後も地域に愛される「ふるさと安松小学校」になるよう教職員一同、努力してまいります。



富岡小学校 開校150周年

富岡小学校は開校150周年を迎えました。後援会、PTA本部、学校教職員が協力して準備を進めました。

11月には開校150周年記念式典と記念音楽会を執り行いました。式では市長の小野塚勝俊さんのご臨席を賜り、ご祝辞をいただきました。在校生は6年生が式典に参加し、5年生以下の児童は式典の様子をリアルタイム配信し、教室で視聴しました。他にも多くのご来賓の皆様や保護者の方々にご出席をいただき、無事式典を執り行うことができました。その後の音楽会では、富岡小150歳の誕生日を祝うかのように、高らかな歌声が響きました。



また、30年前の120周年当時に埋めたタイムカプセルを掘り起こしました。当時の日用品や狭山茶、子どもたちの思い出の品々が入っていました。当時在籍していた方々の代表者にお渡しし、同窓会等で可能な限り配っていただく予定です。



上山中学校 40周年

上山中学校は開校40周年を迎えました。後援会を中心とした実行委員会が30周年の時はどうだったかなど、当時（関わっていない方々なので）を懐かしみながら行事に取り組んでいただきました。

30周年に埋めた「タイムカプセル」掘出イベントには、当時の生徒たちが集い、楽しいひと時を過ごしました。また、在校生による埋設では、10年後を楽しむような眼で見守っていました。



11月の記念式典第1部では、市長さんや教育長さんからのご祝辞、現生徒会長の歴史と伝統を受け継ぐ言葉、第2部では30周年時に作成された映像の続編として、後援会長からの次世代に繋げる心温まるメッセージを含めた映像「上中40年の歴史」、そして30周年時の生徒会長のビデオメッセージが披露されました。次世代へ「40年紡いだ歴史その先へ」のスローガンの心が引き継がれたと思います。

また、50周年で会いましょう。



祝 創立 40 周年



人間地区PTA広報紙コンクール表彰式

人間地区PTA広報紙コンクールの表彰式が、11月24日(金)に、入間市産業文化センターで開催されました。当日、表彰式に参加できた金賞受賞のPTA会長には壇上で表彰状が授与されました。表彰式に先立って行われました人間地区PTA役員等研修会では、「いじめ」をテーマに講演会が開催されました。講演のようすは、会長あてに後日、YouTubeで限定配信されました。

所沢市PTA連合会では、PTAの広報として広報紙に加えて、PTA独自のホームページやブログのほかに、学校のホームページへのPTAページの開設や、PTA独自のSNSアプリ(CoDMoN、学プリ、スクリレ)などを紹介しています。

▼柳瀬小PTA・作田会長



▲若松小PTA・杉町会長



◀人間地区PTA役員等研修会では古山会長が進行を務めました。

菅原会長 PTA会長 8年間お疲れ様でした

菅原新吾・中央中PTA会長さんが、本年度を最後に退任されます。若松小学校PTA会長として3年間、そして中央中学校PTA会長として5年間、その中で所沢市PTA連合会の役員として副会長2期、常任理事3期、専門部長1期、さらに人間地区PTA連絡協議会の理事を2期歴任されました。PTAが、学校にとってなぜ必要かを常に熱く語り、市P連役員としては運営の見直しに尽力されました。



～自転車保険の加入は おすみにになりましたか～



★埼玉県では、未成年者が自転車に乗る場合は、保護者に保険加入義務があります。

加害者になった時の個人賠償責任の保険への加入をご確認ください。

★この保険は、塾や部活動での自転車事故だけでなく日常の賠償責任も補償します。

◆市P連の自転車保険のパンフレットと振込用紙は、2月に配布しました。

◆3月22日までに振り込まれれば、4月1日午後4時から1年間の保険がスタートします。

◆最安1900円で、示談交渉付きです。

PTA団体により
10%
割引適用!

所沢市PTA連合会 会員の皆さま限定

令和6年度

自転車通学・通勤やサイクリング中などの事故への備えは万全ですか?

自転車利用者向け 保険

団体傷害保険

ご加入のおすすめ

万が一の
リスクに
備えましょう



傷害総合保険(普通傷害型・交通傷害型)

個人賠償責任補償 + 示談交渉サービス付(日本国内のみ) = 家族全員補償

子どもや家族が
自転車事故で
他人をケガさせた
ときの保険です!

埼玉県では、加入が義務付けられています!

所沢市でも、近年、市内在学学生が老人との自転車事故で、900万円の損害賠償の支払いが命じられました。

(2022年11月調べ 損保ジャパンお支払いデータより)

過去には兵庫県で小学5年生の自転車事故で、9500万円の損害賠償が確定し、母親に支払いが命じられました。

(判決文で加害者の母親が支払いを命じられた額)「2013年7月4日神戸地裁判決より」

もしもの時にみんなで備える団体保険のおすすめです。



市内でも900万円の賠償支払いが過去に発生しました・・・

★編集後記★

今回広報紙を担当させていただき、様々な視点からのお話を聞かせていただき、自分としても成長ができた一年でした。ありがとうございます。これからまだまだすごい方々が所沢市から選出されれば嬉しいです!